

Good Job
グッドジョブ!!

現場で働くプロに聞く!!

ラジオキャスター

Radio caster

名前 いわもと 岩本 実希 さん (畑中)
会社名 RKK
職歴 3年

今から90年前の1925年に放送開始となったラジオ。当時から現在に至るまでに、軽量化などの進歩を遂げながら、その日その場所の生きた情報をリアルタイムで人々に届けている。インターネットやテレビなどのメディアが台頭する現代でも、その手軽さゆえにリスナーも多い。

短時間の放送に全力投球

「雨の日も風の日も年末年始も元気な声を届けます♪：土日以外は(笑)」。肌を刺す寒空の下でも、底抜けの明るさを振りまく岩本さんは、ラジオのキャスターとして今年で3年目を迎える元気な女性。キャスターになったきっかけを「おしゃべり好きだから」と満面の笑みで話します。毎日県内のあらゆる場所に駆け付けては日に数回のレポートを行っている。

「ミニキャスターは4人いて、2人一組の二班に分かれて出かけます。1回の放送時間は5、6分。その短い時間に全力を尽くします」その数分の放送をするためには、数日前からの情報

収集、アポイント、現場では電波チェック、器材の搬入や配線、そして入念な打ち合わせといった行程をたつた2人でこなさなければならぬ。そのため放送の1時間前までには現場に到着しているそう。

「取材させていただく人も緊張していますので、放送までにいかに打ち解けて話せるかがポイント。特に生放送は少しのミスが放送事故に繋がるので3年たった今でも慣れませんね(笑)」

笑顔の裏には努力あり

「キャスターになってから、毎日マスクをつけて寝るようになりました。テレビや他の番組の良いところはどんどん吸収して、自分の言葉にします。日々努力です」華やかな仕事の裏には繊細な努力が見え隠れする。

「言葉だけで現場を想像してもらわなければ、言葉力は重要。頭の中で、今いる場所の雰囲気や言葉にする練習は欠かせません。『目の前には丸い机があって』とか『芳ばしい香りがして』とか。プライベートでもそれが癖になりますね(笑)」



▶(写真左) お気に入りの赤色ミニ一号。地図を片手に取材へGO! この車は目立つため、すれ違う人からよくあいさつされるらしく岩本さんも「それがうれしい」と話す。
▶(写真右) この日の取材先は益城町。取材先の稲富さん宅(畑中)で放送が行われた。緊張の生放送だが、岩本さんの丁寧なフォローが光り、笑い声が響く放送となった。